

平成27年度
第4回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成27年8月20日（木）14：00～16：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成27年度第4回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こやま 小山	あきら 旭	岡山市連合町内会副会長
しおみ 塩見	まさこ 槇子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
ふじわら 藤原	けいこ 恵子	株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻がまいりましたので、ただいまより平成27年度第4回岡山市基本政策審議会を開会いたします。開会にあたり越宗会長にご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 はい。越宗でございます。委員の皆さん、こんにちは。本日は第4回の審議会ということでございまして、お暑い中を、そしてまたお忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。

前回、先月の29日の審議会から、都合3回にわたりまして政策分野別の重点課題、あるいは長期的な方向性について、委員の皆さまにご議論いただくことになりました。本日はその第2回目ということでございます。会議次第にございますように、今日は「都市・交通」「環境」「安全・安心」の3つの分野について、各部局が作成されました「現状と課題」及び「長期的な方向性に対する考え方」をまとめた資料をお示しされておりますので、この資料をもとに、課題の把握が適切かどうかも含めまして、各分野の重点課題は何だろうか、あるいは長期的な方向性はこういう考え方でいいのか、もっと新たな考え方を盛り込むべきかどうか、そういった視点から、委員の皆さまに意見をいただきたいと考えております。それぞれのお立場でご意見を賜りまして、実りある議論を交わしていただけますようお願い申し上げます。

○事務局（植月） 続きまして本日の委員の皆さまの出席状況ですが、2名の委員の方がご都合により、ご欠席でございます。なお基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。申し遅れましたが、本日の司会を務めさせていただきます、総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。それでは本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 ただいま説明がありましたように、本日は2名の委員がご欠席ですが、今日ご出席予定で、ちょっと遅れてご参加いただくのが阿部宏史委員さんです。それから藤原委員さんには後ほど所用のため途中退席のご予定です。

それでは会議次第に入りまして議事を進めてまいりたいと思っておりますけれども、例によりまして議事に入ります前に傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（植月） はい。本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議会を公開することといたしまして、この後傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 本日の審議につきまして特に支障になる事由はないと思われまので、公開にしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○越宗会長 はい、ありがとうございます。それでは傍聴を許可したいと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局（植月） はい、それでは入っていただきます。

3 協議事項（1）「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について」

○越宗会長 それでは会議に入りたいと思います。まず協議事項の（1）、政策分野別の現状と課題・長期的な方向性につきまして協議したいと思いますのですが、まず事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局（門田） 事務局の総合計画課の門田でございます。よろしく願いいたします。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。

お手元に資料1が全部で3分冊になっているかと思えます。これについて説明をさせていただきます。まず資料1-1「都市・交通」でございます。1枚めくっていただいて、裏側の1ページ目をご覧ください。都市・交通の各論に入ります前に、岡山市が目指す都市イメージを、概念的に整理した図を付けておりますので、簡単に説明させていただきます。キーワードとしてはコンパクト化とネットワーク化、それから多様性と連携ということになるかと思えます。都心部につきましては、高次都市機能の集積を図りまして、観光・コンベンション・ビジネス等による交流の拠点としての機能を発揮することで、市域全体や圏域の発展を牽引していく役割が期待されていると考えております。それから、そこに水色の地域拠点と黄色の生活拠点があるかと思えますが、これについてはイメージがわきにくいかと思えますので、12ページをご覧くださいと思います。ここに都市計画マスタープランを掲載しておりますが、赤い実線の丸が地域拠点でございます。それからオレンジ色の実線の丸が生活拠点ということで、ご覧のようところが生活拠点のイメージとしております。それから隣の11ページをご覧くださいと思えますけれども、地域拠点と生活拠点は都心ほどの高次な機能はございませんけれども、日常の生活サービ

スを受けるのに必要な機能がひと通り揃っていると。地域拠点と生活拠点との差は集積度合いによる規模の差ということでございます。

それではちょっと1ページにお戻りください。この地域拠点、生活拠点につきましては、都市機能を引き続き緩やかに集積させて、将来にわたって機能を維持していくと。そして、都心とは公共交通等により、ネットワーク化を図っていくことが重要かなということでございます。それから左のほうに周辺部と書いてありますが、周辺部におきましては集落、旧小学校区単位くらいで想定しておりますが、集落単位で小さな拠点づくりを目指すとともに、デマンド交通等で生活拠点へのアクセスを確保することによりまして、多様性を発揮しながら安心して暮らし続けられるよう、生活機能をきちんと維持していく必要があると考えております。また、周辺部と都市部との交流、連携を深めながら、全体として調和のとれたまちをつくることで、国内外から人、物、金を呼び込むような岡山市を実現していきたいと考えております。

それでは2ページのほうに移らせていただきます。岡山市のこれまでのまちづくりは人口増加を前提とした都市づくり、あるいは自動車を前提とした都市づくりを進めてまいりましたが、その結果、さまざまな問題が顕在化してきております。その1つが下の枠に書いてありますように低密度で分散した市街地の拡大ということで、以前も申し上げたかと思いますが、人口集中地区が50年の間に面積で5.4倍に増加しておりますが、逆に人口密度は2分の1に低下しているという状況になっております。

3ページをご覧ください。自動車交通への過度な依存ということで、図4を見ていただければと思いますが、公共交通機関の割合が14%から7%に半減しております。自動車の割合は逆に27%から60%に倍増しております。現時点での岡山市の自動車の割合は図5を見ていただければと思いますが、同じ都市規模の平均値と比較しても自動車への依存度が高いということでございます。

4ページをご覧ください。中心市街地の衰退ということでございます。図6に低未利用地の状況というのがございまして、中心市街地で約17%が低未利用地となっております。ちなみに、このイオンのところも低未利用地に入っておりますが、ここを仮に計算で差し引いても約16%が低未利用地ということでございます。図9のところ、商店街では歩行者通行量が減少傾向にあります。図10のところ、表町商店街等では空き店舗が増加傾向にあるということでございます。図7、図8をご覧くださいますと、小売業の面から見た中心市街地の求心力が低下していることが読み取れるかと思っております。

5ページをご覧ください。中心市街地の人口は図11に示しているように、平成11年くらいを底にして増加傾向に転じております。それは図12、図13にありますように、マンションの建設が中心市街地で供給が進んだことによるものでございます。図14をご覧くださいますと、すでに再開発されたところが黄色で、赤いところが事業中ということで1地区ございます。事業化に向けて準備を進めているところが9地区あるという状況になっております。

6ページをご覧ください。図15は環状線の整備状況を示しております。内環状線は完成済み、中環状線の整備率は90%、外環状線は42%に留まっております。図15の中で星印があるところが渋滞箇所ということで、主要な渋滞箇所が42カ所ございます。図16で市道の改良率を見ますと、指定都市の中では最下位ということでございます。図17を見ていただきますと、人口当たりの死傷事故件数が全国平均の1.9倍、政令市の中でも4番目に高いという状況でございます。

7ページをご覧ください。7ページ、8ページのあたりには、公共施設、公共建築物の老朽化がこれからの大きな課題だということを書いてございます。その中で8ページの下側のところに試算を示しておりますが、これは単純な推定ソフトによりまして理論上の数値で、参考として見ていただきたいということでございますが、岡山市が過去5年間に投資した公共施設に対する新規分も含めた費用が年間約275億円であるのに対して、今後あらゆるインフラをきちんと維持していこうとしますと改修・更新の費用だけで年間約477億円が必要になるということで、現在かけているコストの2倍をかけないと維持・改修ができないというデータになっております。

9ページをご覧ください。いま申し上げましたようないろんな状況がこのまま推移して、さらに人口減少、少子高齢化が進行するといえますと、ひとつには空き家や平面駐車場などの低未利用地が増加することなどによりまして、都市の活力の低下が懸念されます。2番目のところ、買い物、医療などの身近な生活アクセスが撤退したり、バス路線などの公共交通が衰退することによって、市民生活の質の低下が懸念される、また、税収の減少、社会保障費の増大、公共施設の維持コストの増大などで、都市機能の悪化が懸念されるといったことがございます。

こうしたことから、今後、都市計画と交通施策を上手く組み合わせて、これまでのいわばメタボな体質から筋肉体質へ都市の形を作り変える必要があるのではないかとということで、10ページが一番右上に書いていますように、都心拠点と周辺地域の各拠点が相互に公共交通を中心とする交通体系で結ばれた「機能的な拠点ネットワーク型コンパクトシティ」を目指していきたいというふうに考えております。コンパクト化とネットワーク化につきましても、冒頭で大きな考え方を説明しましたので、ここの説明は省略させていただきます。

13ページ以降のところは公共交通に関する資料を掲載しておりますが、13ページは重なる部分がありますので省略いたしまして、14ページをご覧ください。人口減少とバス路線の変遷ということで、左上の図のところを見ていただきますと、バス路線廃線とかコミュニティバスに移行した路線とか表示をしております。人口減少率、高齢化率が高い地域、特に山間部ではほとんどの路線バスが廃止となっております。建部・御津・足守地区ではコミュニティバスや生活バスを運行しているところであります。右下の図のところは、これからの人口増減、平成22年から52年にかけての30年間の人口増減率を小学校区単位で示したものの上に現在のバス路線を落しております。青色が濃いところはこれ

からさらに人口減少が大きく進むというところで、こういったところで路線バスを維持できるのかということが懸念されるという状況でございます。15ページのところは同じようにバス路線と高齢化率を重ね合せた図でございます。16ページでございますが、左下の図7のところにバス停別の運行本数ということで、ドットで赤い丸とか緑の丸とかで示しております。運行本数によって色分けをした図でございます。

17ページをご覧ください。課題1のところでございますが、右側のグラフを見ていただきますと、バス停の運行本数の割合によって、公共交通の利用率がどうか、自動車の利用率がどうかというグラフでございますが、当然ながら1日当たりの運行本数が多いほど公共交通の利用率が高いということになっておりますが、これはどちらが原因で結果かという問題がありますので、人口が多くて利用者が多いところは本数が増えるということもございまして、単純に本数を増やせばいいというわけではないと思っておりますが、基本的な考え方としては、その課題1のところに書いておりますように、中心市街地と各拠点をつなぐ公共交通システムの強化が必要だろうということで、2つ目の黒い丸にありますように、より利便性の高い公共交通で結ぶことで自動車から公共交通への利用転換を図ることが重要ではないかと考えております。それから課題2、3は省略をさせていただきます。

18ページの上の課題4のところでございます。公共交通の維持・強化に対する市の役割ということで、2つ目の黒い丸にございまして、公共交通の利便性向上や利用促進に向けて、パーク＆ライドの駐車場ですとか、駐輪場の整備等を進めております。バスマップの配布等も行っておりますが、なかなか公共交通の利用改善には至っておりません。今後、公共交通の維持・強化に向けて、市としてどのような役割を果たすべきなのか、もう少し言えばどこまで税金を投入するのかといったようなことを真剣に検討していく必要があるのかなと考えております。

こういったことを踏まえまして、政策展開の長期的な考え方につきましては、その下の囲みにありますように、コンパクトな都市構造を支える「徒歩・自転車・公共交通を中心とした交通体系の構築」を目指す必要があると考えております。1つ目の黒い丸に書いておりますように、自動車交通を支える道路とともに公共交通も重要な交通インフラだと位置付けて、官民連携して必要なインフラの確保を図っていくというのが主要な考え方になるのかなと考えております。

中心市街地というところには、徒歩や自転車の利用環境の向上とともに、バス・路面電車の使いやすさや快適性を向上させるなど、全体として歩行者優先のまちづくりを進めるということでございます。地域拠点、生活拠点につきましては、中心市街地との連携強化、拠点の周辺部からのアクセス性の向上といったようなことが重要でございまして、自動車利用とともに鉄道・バス等の公共交通の利便性向上やコミュニティバス等の生活交通の維持・導入を図る必要があると考えています。集落地域につきましては鉄道駅やバス停等の交通結節点や拠点等へのアクセスの確保、交通弱者の移動の足の確保が重要と考えており

ます。

それでは20ページをご覧ください。中心市街地ということでございます。現状の部分は皆さんよくご存知のことも多いと思いますので、時間の関係で省略をさせていただきまして、21ページの1番下の課題の囲みをご覧ください。その1つ目ですが、JR岡山駅周辺エリアと旧城下町エリアが、それぞれの魅力を磨き、集客力を高める取り組みが必要ということでございます。2つ目ですが、防災の観点とか、活力ある都市づくりの観点から、災害時等も含めて建築物の更新、有効な土地利用を進めることが必要であるということでございます。3つ目ですが、中心市街地の回遊性向上に向けて、「ももちゃり」の利用促進、加えて自転車・歩行者のための交通空間整備や自動車交通の流入抑制が必要であると考えております。

それから22ページの真ん中とところですが、課題とあるところの囲みをご覧ください。1つ目にありますように、現在の中心市街地の人口増加傾向を維持するため、子どもから高齢者まで暮らしやすい環境の整備が必要である。2つ目については、上に写真が載っています。有機生活マーケット「いち」や満月Barなどがありますが、熱意ある人たちの創意工夫あふれる取り組みが現在行われております。こうした取り組みを後押しするためにも、公園・道路、公有地などの公共空間を活用できる仕組みづくりを進める必要がある。また新たなチャレンジを支援していくことも必要と考えております。

政策展開の長期的な考え方としましては、以上申し上げたような課題に適切に対応した取り組みを進めることで、魅力と賑わいのある中心市街地の創出を図ると考えております。

23ページのところ、中山間地域等でございます。右上に図を示しておりますが、ここに載せております黄色に塗っているところは、厳密な意味では中山間地域の定義ができておりませんので、イコール中山間地域ということではございません。この中には人口が増加している地域もありますし、逆に白いところでも減少しているところがございます。ちょっと正確な中山間地域等というのは、岡山市では定義できていないということでございます。

24ページの上の課題でございますが、中山間地域等では人口減少や少子高齢化の進行、生活利便施設の減少といったことがありまして、地域コミュニティを維持することが難しくなり始めております。また、地域内にせつかく魅力的な資源があっても、地域おこし・ビジネスに繋げるための人材が不足しております。岡山市内のどの地域においても一定の生活利便施設があつて、暮らしやすい生活ができる、そして都市部へアクセスがしやすい環境であることが望まれております。

政策展開の長期的な考え方としましては、まず1つ目、地域活動が維持された小さな拠点づくりでございます。そのためには農林業等の再生・高付加価値化であり、歴史・文化遺産等を活かした地域活動、あるいは後継者の育成、地域おこし協力隊・外部人材の導入による地域の担い手づくりなどを進めていく必要があると考えております。2つ目としましては、中山間地域等と都市部とのネットワーク化の強化を図る必要があり、都市部との

交流を深めていく必要があると考えております。

それでは資料1-2の環境に移らせていただきます。1枚めくっていただいて、1ページでございますが、岡山市環境パートナーシップ事業の表がございます。平成27年度3月末現在で823団体、35,583人が登録ということでございまして、これがESDの活動の基礎になったということでございます。左下にESD活動参加団体の推移がございますが、平成17年に活動を始めてから平成26年にかけて、団体の数が4倍以上に増えています。こういった環境パートナーシップ事業やESD活動といった取り組みを含む実績をベースにしながら、これからの環境保全活動に生かしていくことが重要だと考えております。

2ページの生物多様性の保全でございますが、岡山平野や永江川が環境省から日本の重要湿地に指定されております。また、いちばん下のホタルの生息地点数というのが町中で伸びているというグラフがついておりますが、こういう貴重な財産が岡山市にはございません。2つ目の丸のところに書いておりますが、農地や里山地域等で高齢化・後継者不足が進んでおりまして、野生生物の生息・生育環境に影響しているということでございます。そのため地域住民、企業、NPOと連携して自発的な保全活動に向けた取り組みを強化していく必要があるとしております。

3ページに移らせていただきます。いちばん下に污水处理の人口普及率のグラフがございます。見てお分かりのように、岡山市は污水处理の人口普及率が79.3%、下水道普及率でいうと64.6%ということで、政令指定都市の中では最下位となっております。現在、人口集中地区を重点的に、下水道整備を行っておるところでございまして、まだまだたくさん残っておりまして、今後も財源の確保を図りながら普及解消に取り組んでいく必要があると考えております。上から4つ目の丸でございまして、下水道整備計画のない地域、当面下水道整備の予定のない地域では污水处理対策のために、合併処理浄化槽の整備促進を引き続き進めていく必要があると考えております。

4ページ、低炭素社会づくりでございます。岡山市では地球温暖化対策実行計画というものを作って取り組んでおりますが、削減目標を含めまして国から新たな政策が示されるのを待って見直しをしていきたいと考えております。それからいちばん下に棒グラフが載っておりますが、政令指定都市の中で太陽光発電の普及率は岡山市が3番目でございます。上の2つ目の丸にありますように、太陽光発電は二酸化炭素の削減効果が高いので、引き続き導入促進の検討をしていきたいと考えております。

5ページに移らせていただきます。資源循環型社会の構築ということでございます。そこに図がございますように、1人1日当たりのごみ量の推移でありまして、赤いのが家庭系ごみ、青いのが事業系ごみでございますが、家庭系ごみは有料化に伴って平成21年度以降、大幅に減少しております。事業系ごみはここ10年横ばい傾向でございます。その下に資源化率の推移のグラフがありますが、家庭ごみ有料化によって20年から21年にかけて資源化率がアップしております。焼却残さのセメント原料化によって、22年から

23年にかけてアップしているという状況であります。このほかにも天ぷら油の回収とか、食品発泡トレイ・蛍光灯の回収などに取り組んでおりまして、引き続き各種リサイクル法への対応や技術革新を考慮したリサイクルのあり方を検討していく必要があると考えております。

6ページのところに環境分野における政策展開の長期的な考え方をまとめております。1つ目といたしましては、岡山から広げる自主的な環境づくりと豊かな自然との共生ということでございます。人と自然が共生したまちづくり、生物多様性の保全を進めていきたいと考えております。また、先ほど言いましたESD、その要素を組み込んだ環境教育、環境学習、ESD岡山モデルによる、公民館、学校を拠点とする環境保全活動を推進していくと考えております。また市民、事業者、NPO等の環境保全活動の取り組みの連携を促進していく必要があると考えております。それから水環境の保全・向上に向けましては、公共下水道や合併処理浄化槽などを適切に組み合わせた汚水処理システムの構築を図る必要があると考えております。

2番目といたしましては低炭素型の環境にやさしいまちづくりということで、住宅・ビルのネット・ゼロ・エネルギー化の普及拡大、生活様式の転換、担い手の育成等を推進する必要があると考えています。

3番目として、みんなで進める循環型社会の構築ということで、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの4Rを推進していく。廃棄物処理の技術革新に対応できる仕組みづくりを構築していきたいと考えております。

それでは資料1-3、安全・安心に移らせていただきます。2ページのデータのところをご覧ください。すでに何度もご覧いただいたかもしれませんが、政令指定都市における管理橋梁数というのが載っておりますが、岡山市は全国一の管理橋梁数があるということでございます。2番目の図にありますように、橋の中で15m以上の橋梁で見ますと、20年後には約6割の橋梁が、できてから50年が経過するというところで、老朽化が進んでいくということでございます。1ページの真ん中あたりの矢印で書いてありますように、高度経済成長期に集中的に整備された道路・公園など公共施設の老朽化ということが懸念されておりますので、市民の安全・安心を支えるためのメンテナンスサイクルを継続的に実施できるよう、体制整備・予算確保ということが課題になると考えております。

2ページの下側に市有施設の耐震化への取り組み方針というのが載っております。ちょっと見にくくて大変恐縮でございますが、この方針のもとに取り組みを進めておりまして、早急な対応が必要な施設につきましては平成30年度の耐震化完了を目指しているところでございます。引き続き、効果的・効率的に進めていきたいと考えております。

3ページをご覧ください。いちばん上のところに全国の動向ということで、集中豪雨の発生が増加傾向にございます。真ん中の図ですが、平成23年の台風12号による浸水発生地区ということで、岡山市でも被害が発生しております。実はいちばん下の図なんですけれども、岡山市の水害被害額、平成21年から25年までの5年間で見ますと、全国の

政令市の中で実は2番目に被害額は大きいということでございます。浸水対策については重要な課題であると認識しているところでございます。

4ページですけれども、すでにご覧いただいていると思いますが、自主防災組織の組織率のグラフでありますけれども、東日本大震災を契機として、また市民説明会等の実施の効果もありまして組織率が延びてきておりますが、全国に比べますとまだまだ低いという状況でございます。今後、一層の組織化、組織の活動の活性化といったことに取り組んでいく必要があると考えております。

5ページをご覧ください。消防・救急体制でございます。6ページの8番という図がございますが、消防署所の適正配置計画に基づいて消防署所の適正配置事業を進めてきております。これによりまして、救急車の現場到着時間が平成25年度には若干短縮するという効果も現れてきております。ただ引き続き消防署所の適正配置をさらに進めて、消防サービスの不均衡を解消していく必要があるだろうと思っております。それから6ページの真ん中のところに、住宅火災における住宅用火災警報器の設置状況が書いてありますが、岡山市は住宅用火災警報機の設置というのは全国的に見て非常に低いという状況がございます。この図を見ていただきますと、住宅火災による死者数の中で、それが高いわけですが、そのうち警報器の設置がなかったのが緑の線ということで、警報器のないところが死者に結びついているということが推測されるところでございます。それから、いちばん下に査察結果でみる違反の割合と書いてありますが、消防査察をした結果、何らかの違反があったところが7割程度あったということで、そういったものは是正も課題になっております。

それから7ページをご覧ください。生活安全ということで、8ページの上の14番、15番の図にありますように、交通事故と刑法犯の認知件数については、だんだん減ってきております。岡山市は、人口当たりで見ますと交通事故死者数は、政令指定市の中ではワースト3位、刑法犯の発生件数は全国の政令市の中でワースト8位でございます。刑法犯の中では窃盗犯が4分の3を占めていて、その中でも自転車盗が最多ということがございます。消費生活相談の状況が8ページの下側、16番、17番に出ておりますけれども、16を見ていただきますと相談件数が年々増加してきておりまして、そのうち高齢者が占める割合が4割弱になっております。トラブル金額で見ますと、これも増加傾向にございまして、高齢者が5割を超えているということで、地域のさまざまな団体と連携を強化し、高齢者を見守る地域の目を増やすことが重要だと考えております。それから7ページのいちばん下の丸にありますように、消費者教育に関しましては学校でも取り組んでおりますが、今後、消費者教育を学校現場でより体系的に学ばせるようにするとともに、学校教職員に対する指導力の向上を図るといったことも課題ではないかと考えております。

9ページをご覧ください。そうしたことを踏まえまして、今後の長期的な考え方といたしまして、1つ目が災害に強く安全・安心な都市基盤の整備ということでございます。それから2つ目が地域の防災力の強化と迅速・的確な消防救急体制づくり。3つ目が安全・

安心な市民生活の確保ということでございます。時間の関係上、説明のほうは省略させていただきます。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。今日の議論のテーマ全般にわたっての資料の説明をしていただきました。今日は三つのテーマですが、資料のボリューム、あるいは説明時間の長さからいっても、やはりこの1の「都市・交通」にウエイトを置かれているというのは言うまでもないところでございますけれども、もちろん2、3も大事なテーマであります。まずは今の資料説明で、議論の前提として、もう少し詳しく聞きたい、あるいはここがよく分からないといった部分があったら、委員の皆さんから、どうぞ遠慮なく、ご質問をいただきたいと思います。何かございますか。どうぞ。

○杉山 いまご説明いただいた資料についてではないのですが、私の発言がちょっと間違っただけで表記されているので修正をお願いしたいと思っております。資料2-1の岡山市基本政策審議会における各委員の発言要旨の都市・交通分野のところでございますが、この資料2の1の26番。私が申し上げたかったのは坂道の改善ではなくて、歩道の改善をお願いしたいということで、歩道の勾配の付け方が強すぎるということです。要するに勾配が強いと当然水はけは良くなるのですが、歩きにくくなります。いまの技術をすれば、そんなに勾配を付けなくて十分対応できるのではないかと思います。広い歩道も多く歩行者には親切ですが、強い勾配を付けたままの形が残っているのではないかと考えています。もっと歩きやすい、そういう歩道を目指していただきたいということなので、坂道のつけ方がひどいということではないということをお願いいたします。

○越宗会長 はい。

○事務局 不正確な記述で大変申し訳ございませんでした。

○越宗会長 はい、よろしく願いいたします。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 先ほど説明いただいた中の、3の安全・安心の6ページの⑧の消防署の範囲、この地図の中に御津・建部のエリアがないように思うんですけども、これは御津・建部は出張所がないから、地図として切つてあるということなんですかね。すいません、細かいことで。

○越宗会長 どうでしょう。

○消防局長 失礼します。消防局長です。御津・建部にそれぞれ出張所がございます。こ

ここで表したいのは、いわゆる市街地の中で消防署所が適正に配置されていないということを表記するために、図面の関係で御津・建部の出張所は入れていないというだけでございます。決して御津・建部に出張所がなくということではございません。

○越宗会長 ほかにはございませんでしょうか。はい、どうぞ。

○片山委員 最初の「都市・交通」なのですが、その24ページのところに、中山間地域等と都市部とのネットワーク化の強化と書いてあります。また、高次機能を有する都市部とのネットワーク化と書いてあります。前のページでもネットワーク化という言葉が出てきているのですが、何と何をネットワークするのか、どのようにネットワーク化するのか、ネットワーク化の意味がちょっと分かりにくいのですが。このネットワーク化というのはどんな意味でしょうか。

○越宗会長 何か具体的な説明をお願いできますか。

○政策局長 このネットワーク化というのは、先ほど申し上げました生活拠点であるとか、地域拠点、こういったところの間を公共交通であるとか、民間の交通会社というものを使って、地域拠点と都心との間を繋いでいくという意味でございます。

○片山委員 これは交通だけの問題でしょうか。それとも何か、インターネットなど通信機器を使つてのネットワーク化ということも考えていらっしゃるのでしょうか。

○政策局長 いまのところ、このネットワーク化というのは人が行ったり来たりということになりますので、交通面についてのネットワーク化ということでございます。

3 協議事項 (1)「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について」①都市・交通

○越宗会長 よろしいですか。それではこれから、順次、議論を進めてまいりたいと思います。まずは「都市・交通」の分野であります。会議次第の中にも「都市・交通」、四つほど小さな項目として、都市交通・インフラ、公共交通、中心市街地、中山間地域等、これに沿って資料説明もあったわけですが、どの分野を中心にご意見を述べられても、議論をいただいても結構だと思うんですけども、前回の例にならしまして、最初は、これまでご発言いただいていることなどを参考にさせていただいて、2、3の方に私のほうからご指名をさせていただきたいと思います。まず「都市・交通」で集約型の都市をどうつくっていくかというご意見を述べていただきました、阿部宏史委員さん、ご意見をよろしく願います。

○阿部宏史委員 はい。ありがとうございます。基本的に書かれている政策展開の方針としてはいいと思うんですけども、コンパクトな都市構造を考える、ですとか、あるいは徒歩・自転車・公共交通優先ということや、これはどこのまちでも出てくる話でありまして、要はこれを具体的にどういうふうに変現していくかということが重要になってくるのではないかと思います。

そういった意味で、例えば徒歩・自転車・公共交通優先とは言いながらですね、やはりまちの動きを見ますと中々自動車優先の動きから流れが変わっていない。街中の道路の構造を見ましても、例えば自転車通行帯などもどんどん整備はされているんですけども、まち全体として見た場合にネットワーク化されていないという問題がありまして非常に使いづらい。やはり車を避けながら、自転車を利用しているというような状況から中々転換できないんじゃないかなと思います。

それから公共交通についても、優先、優先と言いながら、中々交通事業者の間での合意形成の問題。バス1つとっても、やはり根本的に解決しようとするバス専用レーンをきちんと整備して、バスの定時性・速達性、そういったことをきちんと保証していかないと中々公共交通優先のまちづくりというのも繋がっていかないんじゃないかなと思います。バスに比べますと路面電車、LRT、鉄道のような定時性が確保できる、専用の軌道を持ったシステムというのは有利なんですけども、やはり岡山市のようにかなり低密度・拡散型に広がった都市ではバスが重要な役割を果たさざるを得ないことになって、もう少しどういったふうに変現していくか、あるいは利用者を増やしていくかということを実際に考える必要があるんじゃないかという気がいたします。これは交通手段の話であります。

それからもう1つは、コンパクトシティという言葉がよく言われるんですけども、実際にはほとんど言葉とか理念が先行して、その変現を担保するような施策が十分にとられていないと思います。例えばコンパクトシティを變現しようとする、やはり土地利用との関係がきちんと連携されていないと變現できない。都心部を見ますと、空いた土地がコインパーキングになったり、あるいはマンションができて都心の人口が回帰するのはいいんですけども、都心全体として秩序のとれた形で都心供給が進んでいるかという点必ずしもそうではない。郊外にいくと最近では空き家の問題が非常に深刻化しているといったような形で、そういった有効利用されていない、あるいは秩序が十分とれていない土地利用をいかにコンパクトシティに向けて上手くコントロールしていくかということが重要ではないかなと思います。

ですから、ここに書かれてあること自体は非常に素晴らしいことではあるんですけども、実際に變現していくのにどういったふうな施策をとっていくかということが重要なポイントかなと思います。以上です。

○越宗会長 そうですね。おっしゃる通りです。阿部典子委員さん、先ほど消防の問題、それから西川エリアをもっと活用するといった観点からご意見をどうぞ。

○阿部典子委員 はい。まず都市部の話でいうと、先ほど阿部先生もおっしゃったように、コンパクトシティということは土地利用とかの観点が必要ということと、それから自転車利用ですね。いまこの周辺で自転車とか公共交通を中心にしていった時に、利用しやすい、利用できるような現実的な施策に結び付けていく必要があるのかなと思います。

もう1つ、特に中心市街地以外の周辺部の交通ということで考えた場合に、ここに書かれているコンパクト化とネットワーク化の、この絵はすごく分かりやすいなと思うんですね。ただその場合に、周辺部の生活の拠点、小さな拠点づくりというのは、いまは全国的にも言われています。同時に小規模多機能な自治とか地域とかというような形で、これから高齢化も進んで自分たちで自分たちのことをしなきゃいけない時に、医療も福祉も商業もみたいな多様な機能を持っているというようなところを、地域の中で小さな生活の拠点になるところをつくりあげていくことは、すごく必要だろうと思うんです。

そういった時にやはり重要になってくるのは足の問題で、この足をいまバス停、14ページに図があったかと思うんですけども、路線バスからコミュニティバスへと移行されていっているけれども、実際にはコミュニティバスでも高齢化が進んでしまって、中々使いづらい、使えないというような状況がある中、さらに高齢化が進んでいった時に、この部分の交通をどうするのか。公共の交通と視点とまた違った、1つ別の視点と言いますか生活の支え合いとか、いま有償運送であるとか、登録不要の移送とか、助け合いの移送とか、そういったこともあるかと思いますが、そういう取り組みを進めていくこともあってもいいのかなと。現に福渡や御津のあたりですと、まだ民間タクシー業者が結構あって、そういうのがやはり通院の時にはすごく使われている。コミュニティバスだと使いづらいのでタクシーが使われている。そういうせつかくいま機能しているタクシーとの連携みたいなことも考えていく。場合によってはカーシェアリングみたいなこととか、自動運転とか、安全装置とか、そういう技術的なことも視野に入れて、小さな拠点の中の、そこに行くまでの住んでいる方の移動をどう確保していくのかというのは、都市も抱えており、しかも周辺部分の交通困難者、移動困難者がいるこの岡山市で進められることはまだまだ具体的にたくさんあるんじゃないかなと思います。ちょっとまとまりきれませんが、そんなことを思いました。ありがとうございます。

○越宗会長 ありがとうございます。もうお一方、梶谷委員さん、自動車産業に従事されていますが、車と人、公共交通で分離ということをもっともっとやらなきゃいけないというお話を私記憶しているんですけど、公共交通と個別交通のバランスを考えないといけないというご意見がありましたけど、何か。

○梶谷委員 やはり公共交通を考える時にですね、公共交通の頻度設計をきちんとやってもらわないと、いくら公共交通を設置したからそれに乗りましようと言っても、1時間に

1本とかだと、まず使われない。ということは公共交通を使ってもらおうと思うと、それだけの頻度、動かせるだけの人口配置がその周辺にないと逆に言うと公共交通は使えないんじゃないかなと。そうすると先ほど言われた土地利用だとか、どこにどう人が住んで、それと公共交通をどうつくるかというところまで押さえておかないと難しいのかなと。そういう意味でいうと個別交通をここまで入れて、そこから後は公共交通を動かすことができるから、極力車は控えましょうねというようなスタイルでいかないと、非常にコスト的にも難しいのではないかなと。そうすると個別交通と公共交通の結節点を、どこに配置をして、どうデザインしていくのか。パーク&ライドをいまトライアルでされていますけども、それを本当に都市全体を考えた時に、どう設計していくのかということが非常に大事になってくるのだらうと思います。

特に重要になるのは、中心市街地。この中に自由に車を入れていいのかどうかというのは、しっかり議論すべきではないのかなと。というのは中心市街地が、ある程度車を排除しながら、非常に豊かな歩行空間ができてくると、そこに人がまた回帰してくるのではないかな。中心部が住みやすい、そして、いろいろ商業施設も整ってくる。住んで暮らしている地域、やはり人が暮らしているのは、人のスケールでできた空間だらうと思いますので、それが中心市街地としてきちんと整備されてくると、よりいいんじゃないかなと。そして中心市街地の周辺部に個別交通との結節点をきちんとデザインしていくということをやっけていかないと、ここに地域拠点と主に公共交通を結ぶと書いてありますが、いまの住宅の配置等からすると、わざわざ地域拠点に行って、そこから公共交通に乗り換えて都心に来るかという、そういう人は非常に少ないんじゃないかな。逆に言うと地域拠点より遠い人はそこへ寄るかも分かりませんが、中心市街地に近い人は恐らく中心市街地まで来られると思いますので、どこに結節点としてつくっていくのかということを考えていく必要があるんだらうなと思っています。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。中心市街地の賑わい、魅力をどう生み出すかというのは、各委員さんからもいろいろとこれまで意見をいただいています。どなたでもご意見を述べていただきたいと思います。はい、どうぞ。

○杉山委員 資料1-1の1ページの概念図のところなのですが、大きな点でいうとこれは多分間違っではないと思います、ご承知のようにインバウンドとアウトバウンドの観光客が、今年逆転しておそらくインバウンドのほうが2,000万、3,000万、将来的には4,000万、5,000万を目指す時期が来るとなっています。フランスみたいに8,000万を超えるようになると日本はすごい観光立国になるとなっています。おそらく近い将来、多分今年度か来年早々にはインバウンドのほうがアウトバウンドより大きくなる。そうすると国内外という概念で分けるのではなくて、ここはちゃんと国内と海外という形に分けて、岡山市としても岡山空港というのが海外に向かって開けているという発想を持

つべきではないでしょうか。そういう観点からまちづくり、それから観光施策とか観光産業の育成とかということを考えるべきではないかなと思います。従って、国内外という言葉で1つにしないほうが、おそらく長期的な、特に10年計画を考える場合には、非常に大切な視点ではないかと思います。

○越宗会長 ほかに、どうぞ。

○小山委員 ちょっと私のほうが勉強不足かもしれませんが、お尋ねと同時に話したいと思いますが、市内の交通関係というので自転車というのがでてきていますけども、ここにある「ももちやり」の利用ということなんですけども、地域から岡山市内に出て来て、自転車どこにあるのか分かりませんというのをいっぱい聞くわけです。この「ももちやり」の発想が私よく分かりませんが、基本的には地域から、あるいは県外から観光めぐりとかそんな形で来て、自転車を活用してまちの中心を行ってもらおうという試みなのか、それとも市内の住民の方が自転車を使うものなのかというのがよく分かりません。言いたくないんですけども、市の職員が通勤に使っているのがいくらかあるというのが私の耳に入ってきている。

それが良いか悪いか別として、私は自転車の設置場所がね、例えば駐車場のところにね、交渉して置いてもらうようにするとか。そこから自転車で市内を回ってもらうとか。絶対その人は車のところに戻るから自転車も戻ってくるということが可能ではないかなと。どこかにぽんと置いて、帰ってこないから、市の職員がまたそれを晩になったら集めてくるというようなことで、これは果たしてどうなのかなと。本当に自転車を活用してまちをうまくやっていくのならば、地域から来ても、駐車場のこのへんにあるんだけど、そこに自転車を置いておけば、そこから市内をぐるぐる回ってくれるとか、そういう活用方法ができないのかなというふうに私なりに考えてきたんですけども、いままでの成り立ちがちょっと勉強不足で申し訳ないけど、ちょっとそのあたり感じましたので、言っておこうかなと思います。

○越宗会長 岡山市は自転車先進都市を目指そうというので、「ももちやり」は大事なものでありますが、現状はいかがですかね。いまご質問がありましたけどね、設置場所がよく分からないなど、そういう声に対しては何か。

○都市整備局長 都市整備局長の山崎です。いまですね、駅東口エリアで17カ所設置をしております、駅とともに、主要な施設、公共施設であったり、商店街であったり、主要な施設にポートを設けているという状況でございます。実際、駐車場から「ももちやり」への転換という中で、今度ですね、市役所の横に駐車場を整備しようと思います。その横に「ももちやり」のポートを付けるということで、今後は車で来ていただいた方に「もも

ちやり」に乗り換えて市内を回遊してもらおうと考えております。

○越宗会長 はい、よろしいですか。ほかには何か。どうぞ。

○浜田委員 岡山大学の浜田です。中心市街地をコンパクトシティ化して、周辺のほうはコンパクトタウン化すると。相互にネットワークで繋ぐと。基本的な考え方は非常にいいんだというふうに考えていまして、特に意見はないんですけども、具体的に何ができるかということで、1つは都市としての魅力ということを考えますと、大学を活用するということがあるのではないかと考えていまして、市街地には、岡山大学とか就実大学とかございますし、それから周辺で言いますと岡山県立大学とかございますし、そういう大学を活用して、都市としての魅力を高めるという観点があってもいいのかなと考えています。

岡山大学としまして、地域に開かれた大学というのを最近言っていますけど、むしろ地域に対して大学をどんどん開いていくと。学生も教官も地域にどんどん入って行ってですね、地域貢献をしていくというふうに考えています。大学や大学病院に魅力があれば、若い優秀な学生も集まりますし、それから若手研究者や医師、看護師、そういう優秀な若い人材を全国から集めることもできるということで、1つの観点として大学を活用して、まちづくりに役立てていただくということがあってもいいのかなと感じました。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。特にございませんか。はい、どうぞ。

○梶谷委員 都市交通というか、交通網をつくる時、道路が流す道路なのか、使う道路なのかということ、しっかりと決めていただいて、流す道路は流せるような周辺の土地利用にしていただければなと思います。いまはどちらかというとな本来流す目的でつくった道路がですね、道路ができるとその周辺に商業施設がすぐできてしまう。そうすると流すつもりが流れなくなるということで、結局、何のために道路をつくったのだろうかというのが結構あるような気がします。そのへんは土地利用をしっかりと、有用な農地の残すところは残すということが今後は大事になってくるのではないかなと。

それからもう1つ、今後、いろんな公共施設の維持をしようとする、非常にお金がかかりますよという中で、今後人口がある程度減ってくるという中では、ある意味でいくと、ここはもう維持しない、廃棄するんだというところ、ここは維持をしていくんだということの、改めて都市の構造としてどうやっていくかを、かなりコンセンサスをとっていくのは難しいと思いますが、そういうことをやっていかないとすべてを維持をしようすると、人が少ない中でバラバラと残りつつですね、廃墟がありながら人が住んでいるということになるかと思しますので、改めてそういったことも、結構大仕事だと思いますが、やっていく必要があるのではないかなと思います。

○越宗会長 はい。私も、少し意見を述べさせていただきたいと思いますが、中心市街地、魅力と賑わいのある中心市街地の創出という考え方をまとめていただいています。この中でやはり自動車から人を優先するまちという、そういうフレーズがありますけれども、岡山市の新しい政策をやさしく表現するものとして非常にいいのではないかなと思います。

先ほどのデータ説明でも、岡山市は自動車への依存度が大変高いというのも事実でありますから、ここはテーマの環境、安全・安心にも、環境保全、渋滞の解消、交通弱者への配慮等々を考えますと、全てに通じるわけでした、やはり自動車の流入を的確に規制というか、抑えながらですね、公共交通機関の整備を強力に進めていくというのが岡山市の目指すべき方向であろうと思いますし、それが歩行者空間の確保、自転車利用環境の整備というのが、歩行者の視点から見ると歩道は自転車走るという状況がたくさんありますからね、そのあたりは大変危険もあるということで、これは事業費あるいは計画の面でも大変だろうと思いますけども、やはり歩道、それから自転車走行レーン、車道という区分けというものをできるだけ進めていかないといけないんじゃないかと思います。

それから公共交通や路線バス事業、16ページから18ページに述べられていましたけれども、バス事業者さんがいらっしゃらないから申し上げるんですけども、何しろ事業者さんが多い。これが岡山の特徴でありましてですね、バス停あるいは路線、さらにICカード、これがそれぞれの事業者さんで微妙に違って、利用者側は大変分かりにくいという状況があるというふうに思います。これは事業者間の調整が困難になっているという課題というものが挙げられておりましたけども、ここはですね、これからの岡山市を目指すには市がリーダーシップをとられて、路線バス事業者の調整役を務めて、いままでできなかったことをやるというくらいにやっていただきたいと思います。

それからもう1つ、7ページ、大変興味深いデータがあるんですけど、岡山市が管理する橋梁、15m以上の橋梁が9,630橋、全国1位というデータがあります。これはやはり岡山市の交通施策にとりまして、橋の多さというのは1つの障害にもなっているんでしょうけども、しかし、逆転の発想で橋の多さを岡山のセールスポイントにしていくという考え方も必要ではないかと。いろいろな河川に架かる橋というのは特色がある、歴史のある、物語のある橋がたくさんあるわけですから。東京が坂が多いということで坂を売り物にしているまちづくりがあるんですけど、1つ岡山は橋を貴重な文化遺産として見直すべきじゃないかなと思います。これは後ほど環境にも影響するんですけども、橋が多いということは水路が多い。そこにはいろんな生物、多様な生物がいるということで、環境教育にも使えるでしょうし、いろんな意味で今後、全国一橋が多いということを何とか上手く活用されてはどうかと、そんなことを私は感じました。ほかには皆さん、ないですか。特にございませんか。

3 協議事項（１）「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について」②環境

○越宗会長 それでは続きまして2の環境分野に入りたいと思います。この専門といいますとまた阿部宏史先生、E S Dのモデル、お話してもらえますか。

○阿部宏史委員 はい。また発言の機会を与えていただき、ありがとうございます。とりあえずE S Dのことで若干気になりますのは、E S D自体を環境教育、環境学習との関連でとらえるというのは非常に分かりやすく必要なんですけども、必ずしも環境活動そういったことに限ったものではないんです。もう少し幅広い意味にとらえるべきであるということで、環境学習等の関連でE S Dが言われるのは、社会の持続可能性を考えるうえで環境というのが1番わかりやすいということで、よく言われているんですけども、本来の意味から言えばもう少し社会的ないろんな問題、例えば日本全体でみますと格差の問題ですとか、あるいは海外をみますと貧困の問題があり、それからいろんな紛争の問題、いろんな問題があります。そういったものに徐々に、特に子どもたちの成長にしたがって、それを広めていって最終的には大人になった時に持続可能な社会を担う人間になってほしいという考え方があります。

特にその場合、学校教育と地域の活動との連携ということが重要でありまして、そういう意味で、以前にもお話にありました岡山で展開されているコミュニティスクールの考え方というのが非常に重要なことであります。ですから環境から始めてですね、できるだけ世界に目を向けた幅広い取り組みをしていくことが、今後のE S Dを考えるうえで重要なのではないかなと思っております。

○越宗会長 ご意見を、どうぞ。

○杉山委員 資料1-2の3ページのところですが、汚水処理の普及率が岡山市は政令指定都市の中で一番低いというデータがあります。別にこれは恥じることでは全くなくて、これだけだっぴろい、しかも前の資料1-1では160万都市圏ということを考えているのであれば、つまり岡山県のほとんど、美作を除く全域が対象だということであれば、全域に対して下水道処理施設の設置をやっていたら破産します。だから合併処理浄化槽で構わないので、合併処理浄化槽の普及率日本一を目指すということを明確に打ち出せばいいのではないかなと思っています。

それからもう1つは、これから社会インフラの道路や橋とか、先ほど資料1のところでも多く触れられていますが、維持コストが一般会計予算で倍くらい必要になってきます。つまり、250億とか300億必要になると予測されています。家庭のごみ処理費用が平成21年に有料化することによって、これだけ削減できるのですから、もっとここを厳しくして少しでも一般経費の中で費用削減ということをしっかり考えないといけないと思います。すべてをやるということなんか到底あり得ない。ずっと議論してきましたけど、やる

べきことがいっぱいあります。もう少し経費をどう見直しをして、どこに集中投資をするのかということを考えていかないといけないと思います。そういう意味で考えると平成21年にやったような仕掛けで、例えば家庭のごみはこのまた半分にするのだというくらいの強い意志を持って、まちをつくり上げていかないとやりたいことはできない。新たな公共交通網もできないということになってくるのではないかなと考えております。

○越宗会長 ほかに何か。どうぞ。

○清板委員 環境の問題はここでまとめられていますが、生物の多様性をどう守っていくかという問題と、河川の汚水の問題、低炭素、二酸化炭素の問題、ごみの処理とその資源の活用の問題、大きな4つの流れがあるのだと思うのですが、それについてご説明があって、最後に長期的な考え方の政策展開が述べられているんですが、その最後の政策展開の説明が、すごく高次概念、概念的な説明をなされていて、それぞれ市民の具体的な生活の中に、どのあたりに問題を理解していったらいいのかということが、結局最後の政策的な長期的な考え方のところで、あいまいな表現になっているように思います。もっと住んでいる人々の生活実感に根ざした表現を取り入れたものとして、長期政策をまとめていかないことには、それら四つの流れは、結局これから時代を担っていく子どもたちの教育にきっちり繋げていかないといけないわけですから、具体性がイメージしにくいという印象を受けました。

○越宗会長 長期計画といえども、できるだけ具体性を伴った提案や提言、表現が必要であらうという問題、私も同感でございます。どうぞ。

○片山委員 人と自然が共生したまちという場合に、自然との触れ合いということになりますと、やはり親から学ぶことがすごく多いのではないかと思います。まず家庭での教育、それから学校での教育、コミュニティでの教育、また地域における教育。環境問題というのは、どの問題を取り上げましても子どもの頃からのあらゆる場面での教育ということが大変大事ではないかと思います。以上です。

○阿部宏史委員 よろしいですか。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○阿部宏史委員 いまのに関連しまして、6ページ目の政策展開の長期的な考え方の中で、①②③という形になっておるんですけども、見ましたら①が自然共生ということで、②が低炭素、③が循環社会で、環境施策の3つの柱になっているんですね。ところが①の真ん

中のところに、ESDの話が入っているんですね。これはむしろここに入れるよりは、もう1つ柱を立てて何人かの委員さん方からご意見がありましたように、人づくりの話で四番目の柱をつくられたほうが流れとして分かりやすいんじゃないかと思います。

○梶谷委員 いまおそらく環境をやる場合、やはり土地利用政策と非常に関わってくるんじゃないかなと感じています。残すべきところは残すということを明確にしていたほうがいいのかなと。ここ何年か見ていると優良な農地や非常に環境的にも大事なところが、経済性優先で商業施設になったりしたことが結構あったのではないのかなと感じます。そのへんも、環境を土地を利用するという点で考えていかないと乗り切れないという感じがしました。

3 協議事項(1)「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について」③安全・安心

○越宗会長 大体よろしゅうございますか。それでは続きまして③の安全・安心について、いろいろと議論をしていただきたいと思います。安全・安心、地域団体の代表というわけではないんですけども、塩見委員さん、どうですか。

○塩見委員 私たちは消費者の団体でもありますから、非常にいまオレオレ詐欺からいろんな詐欺の被害が非常に増大しているのので、その部分を啓発していくことが非常に重要だと。消費者の教育と言いますか、小さい頃から教育をしていくことと、高齢者に対しての指導という観点から取り組んでいただく必要があるかと思います。

それからもう1つは、地域での防災のシステムができているところと、できていないところが町内会であると聞いておりますが、私の学区もちょっとできていないので、早急につくっていくようにしなければと思っております。

○越宗会長 小山委員さん。

○小山委員 それでは連合町内会のほうから。岡山市安全・安心ネットワークをスタートしてもう数年になります。それぞれの学区でさまざまな活動をされています。私はいつも行政をお願いしています。活発にやっている地域を行政は見に来て、全学区にそれを発表しなさいと、何回も言ってきましたが全然来てくれなかったりとかありますね。

それはそれとして、実は私、平島なんですけども、安全・安心ネットワークを立ち上げたのが平成20年なんで、平成21年からずっと今年まで、地域を巻き込んだ安全・安心ネットワーク祭という行事をしてきました。

特に今年は、小学校の校長先生が子どもについて、災害における避難という問題で行いたいとの希望がありました。それで土曜に授業の日が年に2回かありますから、土曜の授業の日を使っていただいて、授業中に地震が起きたということで、各教室の先生が授

業でどういうふうに避難をさせるか、机の下へのもぐり方とかそんな訓練をやってもらったり。それから今度は校長のほうで放送があって、体育館のほうに避難しなさいと言って、体育館に全員避難するやり方とか。今度はそれに合わせて、各町内で保護者が子どもを引き取りに行く。そこまで学校の段階でやっていただきました。今度は保護者が自分の子どもと各町内の避難場所に帰っていった。その時間帯に合わせて町内会長は町内のお年寄りたちを避難場所へ誘導をする訓練をして頂きました。

せっかく児童、保護者、それからお年寄りが集まることから、何か1つ防災訓練をやっていただきました。どの町内会長も初めてのことでびっくりしながらも、本当に率先してやってくれました。実は最初600名で予定していたんですけど、833名の参加で、833名ということは平島の2世帯に1人くらいの参加になります。

ネットワーク祭を通して各町内ではこんな声が出ましたね。町内会でこんなに多くの子どもがおったのという不思議がる人たちがいました。日頃町内が、横の繋がりが無いということがありますから。こんなに子どもさんが居たんですかとかね。地域の交流というのも果たせたということと、それからやってみて子どもさんたちも非常に参考になりましたとの声も生じました。これは1回じゃなくて続けてくれるんですよという意見も出ました。

私は、これは突発的にやったのではなく、防災参加に必要なこと、これをきっかけに各町内が、2年後、3年後を目指して、各町内で自主防災組織をつくっていただくというのが、私のシナリオです。その1ページとして今回やらせてもらったと。各町内会長には2年、3年後には各町内で自衛組織をきちんとつくって、規約も作り、地域を登録して、最低限度の準備をしましょうというところに、いま教育をしているところです。

お陰様で、21年からはじまり、7回目の安全・安心ネットワーク祭でした。非常に皆さん喜んでくれたなと思っております。だから各学区でもそれなり一生懸命やっているとします。一番大切なのは地域の人を巻き込んで、一緒に考えて、一緒に訓練、勉強をすることが必要なのかなと。今後もそれを進めていきたいとします。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。自主防災組織というのが本当に組織率が低い。岡山県平均より低いというのは、ちょっと残念というか、課題だろうと思いますけども。いろんな公共施設の耐震化とか、あるいは浸水対策、そういった防災減災というのは行政が関わるべき部分が大いでしょうけど、やはり行政に頼るだけではだめですからね。自助、共助という意識こそ大切だと思いますので、自主防災組織の組織率の向上というのは官民でやらないといけないというのは私も痛感しております。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 先ほどの小山さんの話、すごく面白い、いい話だなと思って聞かせていただきました。私も防災のワークショップを地域の皆さんとよくさせてもらうことがある

んですけど、非常時のことを考えること、先ほどのお子さんを迎えに行つて、お年寄りも連れて、避難所に集まってというのは、日頃の安全・安心を地域がどう支えていくのかということを考える1つの大きなきっかけになると思うんですね。非常時だとどうするんだということを考える。そういうことじゃないと皆さんが集まってこれないので、そういう課題を大きく前に出しながら、日頃の挨拶からだよねということを経験のお母さん世代、お子さん世代、高齢者世代と一緒に考えるということがすごく大事なので、自主防災組織率ということに留まらず、そういうことをきっかけに地域のいろんな取り組み、いろんなことを多機能に繋げていくというのが、こういう安全・安心をキーワードにできてくるんじゃないかなと思います。

それと先ほどの1と2の話でもあった橋梁のことがここでも書かれていますけど、橋守りの制度というのをご存知ですか。岡山の技術者のリタイアされたメンバーで構成されたNPOがありまして、そのチームと市民たちで橋を点検して回るという運動を始められていて、それも工業高校の建築科や土木科の生徒さんの学習の機会になっている。そんなふうにみんなで点検していきましょねという取り組みがあるんですけども、こういうことも先ほど、杉山先生がおっしゃるように、確かにいろいろやろうと思ったら本当に資金もマンパワーも無尽蔵になってしまいがちですが、岡山市民は消費者ではなくて、一緒に市をつくっていく人だという考え方で考えた場合、まだやれる工夫はたくさんあると思います。この計画を誰がどのようにやっていくかという大まかな役割分担といいますか、そういうものがやはり必要になってくるのかなということをちょっと思いました。

○杉山委員 よろしいでしょうか。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○杉山委員 東京は、やっとなんかここにきて、ほとんどの箇所に海拔何メートルという表示ができました。南海トラフ沖地震が来ても岡山は安全・安心だと言われてはいますが、実は戦後の埋立地も多いので岡山市は3m以下のところが多いのではないかなと思います。海拔何メートルというのは非常に明確なメッセージなんですよね。それを特に、最初は学校の近辺とか、公園とかそういうところに貼っていくということをぜひやっていただきたい。一体岡山は津波が来た時に、それが仮に3mでもどんな状況になるのかということを探り上げるべきだと思います。災害の時は自己責任で対応することが非常に大切です。地震の多い東京にいと露骨にこの海拔では低すぎてやばいというメッセージが直に伝わってきます。前回の南海トラフの大地震から岡山は多くの地域で埋め立てが進み海拔が低いところが多いことを再度認識すべきなのではと思います。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○高旗委員 よろしくお願ひします。先ほど、安全・安心のところではなくて環境のところだったと思うんですが、阿部先生が地域に開かれた学校、地域協働学校で、教育の問題というのは非常に大きいとご指摘をされました。この環境のこともそうですし、安全・安心もそうですし、先ほど橋守りですかね、阿部典子委員がおっしゃられていたことも含めて、子どもたちの社会参画というものを学校を通してどう説明していくかということが、実はこれからの学校教育の非常に大きな、中心的な課題にもなるということが確かにあるわけですね。

おそらく5年後に実現するであろう次の学習指導要領の改定の中でも、そうした予測不能な未来に対してどのような生きる力を持ち、課題を発見し、それを克服していく子どもたちにしていくことが求められている状況の中であって、社会に参画する機会を子どもたちが得ることによって、そういう体験をしていくことは本当に中心になっていくなと思っています。しかしながら、いまそのことが学校に求められているあり方というのが非常にアンバランスな感じを私自身は持っておりまして、つまり非常に学校というのはマルチプレイヤーである。とりわけ教員に対してはマルチプレイヤーであることが求められ過ぎている現状があるのではないかと。本当に冗談めかして言われることですがけれども、ESDが活発に進んでいいことなんですけれども、社会は持続するかもしれないけれども、自分たちが持続しないとおっしゃられる先生が何人かおられるということですね。そこはやはり変えていかなきゃいけないということだろうと思います。

その点でも、そこに軸足を移していくような学校教育のあり方というものが設計されるべきで、端的に何をやっていかなきゃいけないのかということになると教育課程の外側にあるものにやはり目を付けていく必要があるのではないかなと個人的には思います。直接、この話題に繋がるものではないんですけども、結局意識が変わっていくことを目指そうとすれば、新しい次の時代を担っていく世代に、こういうことにきちんとコミットさせながら、我々世代では見えないところに課題を見つけられる目を持った子どもたちの世代が中心になる。そこまで待たなければいけないということがあるとすると、そういう目をしっかり育てていくような教育が学校の本体になっていくことが必要かなと思っています。

先般、ある高校で、農業高校なんですけども、耕作放棄地に生徒さんたちが一生懸命、そこを畑にして自分たちの教育の場として活用していく取り組みをなさっている、ある県立高校の取り組みを評価員の1人として拝見しました。非常に素晴らしい取り組みなんですけども、ほかの評価委員から出てきたことは、本来農業高校生としてやらなければいけない時間というものを阻害するような形でこれが成り立っていないだろうか、そこを自分が一番懸念するということをおっしゃられました。逆に言うとそういう心配を普通は感じられるのだなとすると、そういう社会に参画していくということこそ、教育の中心に置きうるような学校の改善ということが片方では求められているような気がしました。どうもありがとうございました。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。阿部宏史先生、安全・安心は都市インフラの充実、整備が欠かせないと思うんですけど、その観点から何かご意見はよろしゅうございますか。何か、そういうご発言もございまして、覚えておりますけど。

○阿部宏史委員 やはり気になりましたのは、自主防災組織の組織率の低さでございまして、やはり岡山の人というのは安全・安心ボケと言いますか、私なんかは他の地域の人たちに地域の話をする、とにかく岡山は安全なところだということを言いたがるんですね。大雨の時なんか避難勧告が以前出たことがあるんですが、その時に自分がどうしていいかわからないというような、そうした状況でありますので、行政の側から日常的にいろんな情報提供をして意識を高めていく。それから住民の自主的な取り組みも必要なんじゃないかなという気がいたします。おっしゃった中で、高旗さんが言われたように、やはり子どもたちというのが一つのキーワードになるんじゃないかなと。子どもたちを通じて大人のほうにも伝わっていくという面がありますので、やはり学校教育や子どもたちを育てていく中での、そういった取り組みというのは考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

○越宗会長 確かに岡山は自然災害が他都市に比べましても少ないということで、本当に安全です。例の東日本大震災以降、岡山に1,000人を超える方が依然として避難されて、近隣県では最多ということになっておりますし、去年、受け入れネットワークほっと岡山という、移住者のための相談組織が、10の市民団体が集まってできました。要するに安全な岡山に対する移住人数というのは非常に高いようでありまして、そういう意味では、移住者の受け入れの面では岡山市に限らず、県下全域で行っていることは大変岡山にとっていいことだとか、喜ばしいことじゃないかと思えますし、安全・安心のまちづくりを考えるうえで、やはり住民にとっての安全・安心の向上というだけでなく、そういう外から来られる方の受け入れとか、支援とか、そういう視点というのものも、安全・安心のグループには入れてもいいんじゃないかなということを感じました。どうぞ、副会長。

○泉副会長 全体を通じての感想や先ほどのことですが、杉山先生とか皆さんご指摘のとおりですね、お金のかかることばかりで大変だということなんですね。コンパクトシティ、すなわち社会インフラの選択と集中だということになるんですよ、人口減少、税収減、そういう図式になっていて。それは岡山だけじゃなくて、日本全国ないしはアメリカでもドイツでも実験しているんです。最近のレポートを拝見しましたが、アメリカにおいてもドイツにおいても、日本は佐賀県でやっているらしいんですけども、社会インフラを縮退させるという実験をされていて、結局は失敗だということになった。これはモノ

の本の受け売りなんです、日本においてはですね、3大都市圏以外は1980年代から1990年代に集中的に社会インフラをつくったということがあって、それは50年が一応年限とした場合に2030年、2040年ということで、資料1-1の8ページにあるように、こんなことになりましたということになって、公共的な建物さえ更新できないよと資料は言っているんです。じゃ、選択と集中だ、それは失敗だ。要するに堂々巡りの議論になっているわけですよ。今回でその点を集中的に審議は多分できないと思うんですよ。ですから、日本全体の公共団体の問題でもありますので、そちらのほうで十分議論していただいて、最終的には選択と集中のあり方、コンパクトシティの作り方、具体的にどうするのかということ、やはり1つの共通項みたいなものをつくってもらわないと、多分議論は前にいかないと思われました。私のほうからは以上です。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○片山委員 暮らしやすい安全・安心なまちというのは、これは私たちにとって何よりも一番大事なことではないかと思えます。そして、この岡山市が、いままで皆さんおっしゃいましたように、大変幸いなことに天災が少ないということでは日本のどこよりもいい条件になっている。それからまた、岡山は大変安全・安心なまちであるということ、皆さんからたくさんお聞きしまして、長期的な考え方というならば、10年ということでしたが、岡山が暮らしやすい、安全・安心なまち日本一。日本一暮らしやすい、安全・安心なまちを目指すということにしてはどうかと。10年の間に先ほどの浸水ですか、水浸しになったところが大分あると、杉山先生も岡山は低いところがあると、そここのところの改善とか、また先ほど小山さんがおっしゃいました防災減災の教育と実践、また岡山は医療に関しても非常に進んでいるということ、また大学もたくさんあるということ、大変暮らしやすい、安全・安心なまちであると皆さん意見が一致していると思えますので、これを10年の目標として、日本一ということを目指してはどうかということ、これを提案します。

私は最初の時に、天神山周辺の文化的なこと、日本一になりたいということ、これを申し上げました。いまお話をうかがっていて、暮らしやすい、安全・安心な日本一のまちということ、これを1つの大きな中期目標にしてはどうかと思えます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

○梶谷委員 安全・安心で非常に大事なのが、昼間と夜で全然、暮らし方が変わっているというところを注意しないと、この安全・安心のネットワークというか、制度をどうつくっていくかということ、しっかり押さえておかないといけないのではないか。そういうことでいうと、安全・安心のところに企業がどうかかわるのか。エリアとして企業が町内とどう繋がっていくのかということ、改めてその視点をきちんと押さえておく必要性が

あるのではないかということを感じております。私も企業経営者といいながら、じゃあ企業として、地域の安全・安心に対して、どう、何ができるのか、十分にやっているかというとほとんどできていないということが現実にありますし、おそらくこれは一企業だけでも難しいですし、エリアとして企業同士が連携をしながら、どう活動していくのか。学校が出てきましたけども、学校、企業、そして町内会あたりが昼と夜で、どう役割を果たしていくかということが必要だと感じます。

3 協議事項（2）その他

○越宗会長 はい。よろしゅうございますか。それでは今日の3つのテーマについては、ご意見を出していただいたということで、これをもちまして協議事項、政策分野別の現状と課題・長期的な方向性についての議論を終えまして、（2）のその他でございますが、事務局から何かありますか。

○事務局（門田） はい、次の審議会でございますけれども、今回に引き続きまして、政策分野別の長期的な方向性について、審議会を予定しております。開会日程はすでにご案内しておりますように、8月25日（火）の14時からを予定しております。なお会議資料がまだお配りできておりませんが、いつものように未定稿版という形で、本日中にでも電子メール、電子メールが無理な方につきましては郵送でお送りさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

4 閉会

○越宗会長 はい。ということでございますので、それではもうあまり間がありませんが、8月25日に開催しまして、引き続き、政策分野別の長期的な方向性について、残りの分野の審議を行っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それではこれで本日の議事終了でございますが、最後に大森市長からコメントをよろしく願いいたします。

○大森市長 まだ夏休みというか、お盆休みの翌週ということで、世間は休んでいる方も多い中で、今日この総合計画の会議に来ていただきまして、本当にありがとうございます。大きな議論の中で、いくつかの具体性が足りないという話があったと思います。コンパクトシティ、発想はこの通りだけど、じゃあ、どうそれを実現していくんだという、そういうひとつひとつの具体性をもう少し考えるべきじゃないかというお話がありました。この前の会議では岡山ならではのものというのは一体何なんだというようなお話もあったわけでありまして。当然ながらこの総合計画をつくるにあたっては、いままでの政策とはいったい何が違うのかという縦軸の議論も重要なんだろうというふうに思っております。前回の指摘などをまだ今回整理できておりません。25日もまた同じような形でご議論いただ

くということですが、それぞれこういう貴重なご意見をいただいて、具体的な案文をまた示させていただき、その中で岡山ならではの、そして縦軸との関係、そして具体性、そして指標ですね。具体的な10年後の岡山、どんな数字になってくるのか。数字というのは中々嘘をつけないというところがございますから、そこらへんで我々としての皆さん方からいただいた貴重な意見を踏まえての整理をさせていただき、議論をまたお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○事務局（植月） これをもちまして本日の平成27年度第4回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆さまお疲れさまでございました。

閉会